

令和7年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会  
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覧用

1 開催日時 令和7年7月3日(木) 午後2時00分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが 大会議室

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	清水邦泰	副会長
日下部達也	委員	竹内和重	委員
谷和義	委員	木原健太	委員
妹尾陽	委員	乳原正文	委員
長谷芳彦	委員	岡田勝	委員[代理出席]
永井敏之	委員	近藤紀子	委員
長田貴	委員	清水徳幸	委員

委員14名出席

(オブザーバー)

奈良山 雅一 (兵庫県交通政策課) [代理出席]  
大木 玲子 (丹波市商工会参事)

4 欠席者 新屋敷昭一 委員 蘆田長門 委員  
上田脩 委員 和田綱木 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンド(予約)型乗合タクシーの利用状況について
- ② デマンド(予約)型乗合タクシーの運用変更について
- ③ 路線バスの利用状況について
- ④ 鉄道の取組状況について
- ⑤ 令和6年度の実施事業及び決算について
- ⑥ 令和7年度の事業及び予算について
- ⑦ 丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について
- ⑧ 路線バス運行実証実験について
- ⑨ 路線バスの再編について
- ⑩ モビリティ・マネジメント事業の実施について
- ⑪ 自動運転の検討について
- ⑫ 公共交通の福祉施策について
- ⑬ その他

4) 閉 会

## 1) 開 会

○事務局挨拶

○委員の紹介

○配付資料の確認

〈事前配布資料〉 ・ 会議次第  
・ 資料 1 から 28

〈当日差替資料〉 ・ 会議次第

〈当日配布資料〉 ・ 丹波市地域公共交通会議設置要綱  
・ 公共交通会議委員名簿  
・ 路線バスの再編について  
・ 丹波市地域公共交通計画(新任委員のみ)

○近畿運輸局地域公共交通優良団体 表彰報告

○丹波市デマンド会様 丹波市障がい者サポートマイスターの認定取得の紹介

## 2) 会長挨拶

皆さんこんにちは。本日もよろしく申し上げます。また新しい任期となりましたので2年間、委員の皆様と一緒にいろいろと考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

近畿運輸局地域公共交通優良団体は、路線バスのV字回復で表彰され、大変喜ばしいことです。ただこれから、日本の各地で少子高齢化が進み人口減少になっていく中で、元気な町にしていくためにどうしたらよいかを考えていく中で「公共交通」は1つの大切な要素となると考えます。そのような観点からこれからも活力のあるまちとなるようご協力をお願いいたします。

## 3) 議 事

### ① デマンド(予約)型乗合タクシーの利用状況について(事務局から説明)

【会長】

「① デマンドの利用状況について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

登録者数は増加傾向にありますが、実際の利用者数が減少傾向にあることが気になります。

丹波市の特徴として、70代以上の利用者が多いことが挙げられます。特に、延べ利用者数において80代の割合がかなり高く、乗降場所としては店舗が多いことが分かっています。これにより、デマンド(予約)型乗合タクシー(以下、「デマンド」)が地域住民の日常生活に密着し、欠かせない交通手段となっていることが明らかです。

**【委員】**

1点確認させていただきたい点があります。コロナ禍前の利用者数には達していないものの、徐々に利用者数が回復傾向にあるとのご説明をいただきました。しかし、私の疑問は、コロナ禍前からこのような傾向があったのか、それともコロナ禍によって他の交通手段を利用する方が増えた結果としてこのような傾向が生じたのか、という点です。どのようにお考えでしょうか。

**【事務局】**

資料6ページをご覧ください。全体的な傾向として、デマンドの定着前は利用者数が年々増加していました。しかし、平成28年・29年頃からは、利用者数が若干減少傾向に転じています。その要因として、高齢者が自動車を利用し続ける割合が増加していることが考えられます。その後、令和2年・3年にかけては、コロナ禍の影響で利用者数が一定程度減少しました。とはいえ、コロナ禍においても生活に欠かせない交通手段として、延べ24,000人ほどの利用がありました。

仮にコロナ禍がなかったとしても、これまでの傾向を踏まえると、現在の利用者数はおおよそ想定内であったと思われる。しかし、事務局としては、デマンドが高齢者専用の交通手段ではないことを強調し、若年層への利用啓発を進めていくことも必要だと考えています。今後、若年層の利用者を増加させるための取り組みを進めていきたいと考えております。

また、デマンドの利用者増加に向けて、引き続き努力してまいります。先ほどもご説明しましたが、Webでの登録が可能になったことで、登録者数は増加しています。登録者数の増加は、「とりあえず登録しておこう」「将来のために登録しておこう」という方が増えているためです。しかし、その方々が実際に利用に結びついているわけではないことが課題です。

**【会長】**

運行事業者から何かありますか。

**【委員(運行事業者)】**

市内のタクシー事業者6社で、計13台のデマンド運行を行っております。より安心して安全な乗り物となるよう、引き続き努力してまいります。その結果、大きな事故やトラブルもなく運行を続けております。今後も、より安心・安全にご利用いただける乗り物として運行を進めてまいりますので、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

**② デマンド(予約)型乗合タクシーの運用変更について(事務局から説明)**

**【会長】**

「② デマンド(予約)型乗合タクシーの運用変更について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

**【会長】**

運転手としても時間を気にしなければならず、かなり大変な負担がかかってしまいます。

1点確認です。6月10日からの対応ということですが、運用変更から20日程経過しておりますが、何か不都合等ありましたか。

**【事務局】**

オペレーターへの問い合わせが何件かあります。運用変更に伴う乗車困難ケースについては当初の便から1本遅い便に変更していただく対応をしていただいております。現段階で問題はないと認識しております。

### ③ 路線バスの利用状況について(事務局から説明)

**【会長】**

「③ 路線バスの利用状況について」何か質問、意見等ございますか。

**(質問・意見等なし)**

**【会長】**

運行事業者から何かありますか。

**【委員(運行事業者)】**

利用者増加に関しては、通学補助をいただいているのが大きな要因ではないかと思えます。通学定期券の売り上げが増加しており、大変ありがたく思っております。

**【委員】**

中学生が登下校で利用するようになり、路線バスの運行便数が増えましたが、学生以外の一般の方の利用はどのような状況でしょうか。

**【事務局】**

具体的な数値については、現在のところ把握できておりません。私自身も通勤で路線バスを利用することがありますが、谷川駅から氷上町方面に向かう便には利用者がいらっしゃるほか、帰りの氷上町から谷川駅方面にも乗車されている方がいらっしゃいます。一般の方による利用については、一定数の乗車があると考えています。

### ④ 鉄道の取組状況について(事務局から説明)

**【会長】**

「④ 鉄道の取組状況について」何か質問、意見等ございますか。

**(質問・意見等なし)**

**【会長】**

運行事業者から何かありますか。

**【委員(運行事業者)】**

当社では、利用者増加に向けた様々な取り組みを実施しております。

具体的には、谷川駅での特急停車や加古川線の増発などを行っていますが、現時点ではご利用は少ないようです。加えて、ちーたんの館のリニューアルも控えており、間もなく夏休みに入ることから、利用者数がどこまで増えるかに期待を寄せています。

また、1 Day パス(乗り放題デジタルパス)については、売れ行きがあまり芳しくない状況です。現在、周知やPRが不足していると考えており、今後の改善が必要と感じています。

**【委員】**

県民局やJRの協力を得ながら、久下自治振興会では加古川線の利用促進に向け、様々な取り

組みを進めています。

先日、大学生との交流の際に、加古川線を利用して2名が来訪されました。9時台と10時台にそれぞれ1名ずつ乗車されており、話を聞くとところによると、9時台には10人以上、10時台には20人以上の乗車があったとのこと。このような話を伺うと、加古川線の利用が着実に増加していることを実感いたします。

臨時便については、2両編成も走っており多くの方にご利用いただける体制となっておりますが、利用調査の結果、臨時便は比較的使用が少ない傾向にあります。その要因として、時刻表に臨時便の記載がない、または見づらいことが影響しているのではないかと考えています。

前回の調査に続き、6月30日から2回目の利用者調査を実施しております。前回と比較して、どの程度利用者が増えているのか、結果を楽しみにしております。

先ほど学生利用について触れましたが、事務局からの説明にもあったように、団体による加古川線の利用も増加しています。利用者の方にお話を伺うと、「加古川線に初めて乗った」「乗ってみるととても楽しい」「良いところがたくさんある」といった感想を多くいただいています。こうした小さなきっかけが、今後さらに大きな広がりへとつながっていけばと願っております。

今後とも、加古川線のご利用をよろしくお願いいたします。

## ⑤ 令和6年度の実施事業及び決算について(事務局から説明)

### 【監査委員】

監査報告を行います。令和5年度会計帳簿及び収支決算書につきまして通帳、帳簿ならびに、関係資料を確認いたしました結果、適正かつ正確な処理がされていたことを報告いたします。

### 【会長】

「⑤ 令和6年度の実施事業及び決算について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

令和6年度の実施事業及び決算について承認の方は挙手願います。

➡【令和6年度の実施事業及び決算については承認された。】

## ⑥ 令和7年度の事業及び予算について(事務局から説明)

### 【会長】

予算については昨年度第3回の会議にて説明いただき既に承認済み事項ですが、改めて説明していただきました。

「⑥ 令和7年度の事業及び予算について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

## ⑦ 丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について(事務局から説明)

### 【会長】

「⑦ 丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について」何か質問、意見等ございますか。

### (質問・意見等なし)

前年度と比較し、良くなっていることはとても良いことです。丹波市の公共交通は、路線バス・鉄道・タクシー・デマンド・鴨庄ふれあいバスがあります。鴨庄ふれあいバス運行事業者から何かありますか。

### 【委員(運行事業者)】

地域おこし協力隊の協力を得て、関西学院大学の学生から若い知恵をいただきました。

学生の提案の中から、何を採用し、実施していくかを地域内で検討した結果、「バスが目立たない」という意見が出ました。そこで、賑やかなラッピングを施すことに決まり、ラッピング(マグネット)を採用することになりました。鴨庄ふれあいバスを認知されていない方に対し、認知し、利用するきっかけに繋がればと考えております。

運行時間や、バス停の場所の話も出ましたが、費用面など様々な問題がありますので、現段階では保留となっております。

### 【会長】

少しずつ満たされていくと、次の展開へと進むことができるので“まちづくり”として交通をどのように考えていくか、捉えていくかといった話への展開がこれからあるのかなと感じております。

丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告でHPの閲覧数がなぜこんなにも減っているのか疑問です。何か要因はありますか。

### 【事務局】

丹波市のHPがリニューアルしたことによるものか確かな原因は不明ですが、HPを管理している担当課に確認していただいたところ、このような結果になっております。

このことから、皆さんの目にとまるように情報アップの方法、タイミング、内容等について検討してまいりたいと思います。

### 【委員】

路線バスについてですが、「路線バスの市内利用者数/日」の2027年度目標が270人と設定されており、これは極端に低い数字ではないかと感じています。何らかの理由があつてこの目標が設定されたことは理解していますが、この数値に対して、2024年の実績評価が「前年度より良く、2027年目標も達成している」といった評価は、少々違和感を覚えます。

そこで、2027年度の目標が270人に設定された現在の根拠について確認したいです。

### 【事務局】

数値目標に関しては、交通計画策定の段階で委員の皆さまにもご相談させていただき、設定したものです。その際から、バスの利用者が急激に増加している経緯があります。その要因としては、路線再編のほか、通学定期券の補助や中学校の統廃合に伴い、通学支援として路線バスの利用が決定されたことが挙げられます。

計画を立てる段階では想定できなかった好ましい要素が整った結果、目標を大幅に上回る数値となっております。もちろん、計画の見直しの際には目標値の修正が必要になるかと思いますが、現時点では、先述のように計画策定時よりも大幅な利用者増加があり、このような数値となっている次第です。

**【委員】**

批判しているわけではありません。変動があることは理解しています。計画策定時点ではこのような状況であったことや、通学支援により利用者が増加したことも承知しています。しかし、この270人という設定が、これまでの流れを踏まえた場合、妥当な数値であると言えるのでしょうか。

**【事務局】**

路線バスの利用者数は想定以上に増加しておりますが、これはあくまで路線バス単体の数値です。本来の目標は公共交通全体の利便性を高め、市内移動を促進することにあります。現状では移動手段が路線バスに偏り、数値が極端に現れております。交通計画においては、各手段の個別値ではなく「公共交通利用者全体の合計数」を重視しております。全体の利用者数は右肩上がりであり回復傾向にあるものの、目標値には届いていないのが実情です。単一の指標のみでは偏りが見られますが、5カ年計画の全体像としてご理解いただけますと幸いです。

**【会長】**

計画策定においては、想定外の事態や突発的な変動も起こり得るものと認識しております。現状、公共交通全体の利用者数は、2027年度の目標である2,750人に達していません。目標を掲げている以上、それを上回ることが肝要であり、現在の未達状況を真摯に受け止めております。

今後、計画の見直しを行う際には、より高い目標が設定され、ハードルも上がっていくこととなります。次期目標の達成に向け、現在の課題を一つずつ解消しながら、着実に取り組んでいきましょう。

**⑧ 路線バス運行実証実験について(事務局から説明)**

**【会長】**

「⑧ 路線バス運行実証実験について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

**【会長】**

運行事業者から何かありますか。

**【委員(運行事業者)】**

通学利用については一定の需要を維持していますが、ライフピアいちじま発・丹波医療センター行きについては、さらなる乗車数の増加を期待したいところです。本路線は車両1台・運転手1名の体制で運行しており、昼間時間帯の運行は、稼働の有無にかかわらずコストに大きな差が生じないため、事業者視点でも効率的な運用と言えます。

夕の通学利用は地域にとって不可欠であり、またデマンドの説明でもあった通り、高齢者などの交通弱者にとって通院や買い物は生活に欠かせない要素です。日中の外出機会を確保する意味でも、本便は極めて重要な役割を担っていると考えます。

**【会長】**

医療センターまでの便としておりますが、市島地域内での利用が多いのでしょうか。

**【事務局】**

現在、当該路線は中高生の通学が主軸となっており、朝の2便合計(既存便含む)1日約20名の利用があります。

医療センターへのアクセスについては、単一の路線利用に留まらず、以下のような「二次交通

との組み合わせ」による利便性の向上が見られます。

- ・鉄道+バス：市島駅・黒井駅等 乗り継ぎによる費用・時間の短縮
- ・デマンド+バス：自宅からバス停までの接続による、医療センターの移動
- ・広域移動：市島～春日間など、地域を越えた通院手段としての活用

多様な移動手段（鉄道・デマンド・路線バス）を組み合わせた移動方法を、市民の新たな移動習慣の一つとして定着していけばと考えております。

## ⑨ 路線バスの再編について(事務局から説明)

【会長】

「⑨ 路線バスの再編について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

【会長】

兵庫県からの補助金となりますが何か補足や注意しなければならないこと等ありますか。

【委員】

平均乗車密度が丹波市では2.0以上見込まれる系統が市町振興支援交付金交付の対象となっておりますが、今回再編を考えられている2系統は計画数値がもともと1.9と定められており、補助要件の数値を下回っております。数値を下回っているからといって何の考慮もなく、出来ないというわけではないので、今後県との協議や実証実験実施等々をやっていただく等して、2.0を下回った路線についても引き続き3年間は補助対象になるといった特例もあります。

丹波市の市町振興支援交付金の交付要件は平均乗車密度2.0以上ですが、今回再編予定の2系統は計画値が1.9であり要件を満たしていません。しかし、未達であっても即座に除外されるわけではなく、県との協議や実証実験実施等により、3年間の補助継続が認められる特例措置があります。

【会長】

あと0.1引き上げる努力が必要といったことですね。そのためには、路線の再編や利用者が増える取り組みをする必要があります。

運行事業者の方から見解等ありますか。

【委員(運行事業者)】

対象となる2路線については利用者の減少が続いており、前年度までは平均乗車密度2.0を維持していましたが、直近の算出では1.9へと低下し、市町振興支援交付金の交付要件を下回る見通しです。

「柏原～佐治線」および経由地の異なる系統を含め、路線の再編やルートの見直しが必要です。今後、上記特例の適用も視野に入れ、丹波市と協議を進めていきます。

## ⑩ モビリティ・マネジメント事業の実施について(事務局から説明)

【会長】

「⑩ モビリティ・マネジメント事業の実施について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

#### 【会長】

生徒に向けてモビリティ・マネジメントを実施することは、単に公共交通の利用方法を学ぶだけでなく、以下のような多岐にわたる分野を横断的に学ぶ貴重な機会であると考えます。

環境・福祉・地理の複合的学習：環境問題（脱炭素）、高齢化社会における移動支援、バリアフリーの重要性、さらには地域の地理的特性など、一過性の体験に留まらない深い学びの要素が多分に含まれています。

モビリティ・マネジメント授業のゴールは「バスに乗って楽しかった」という感想だけで終わらせないよう、体験を学習に結びつけ、以下の視点を持たせる授業構成を目指す。

1. 地域課題への主体的な関わり：丹波市のこれからの地域問題を「自分事」として捉え、どのように考えていくべきか、生徒自らが思考を深めるプロセスを重視する。
2. 探究型学習の推進：「移動」という身近なテーマから、地域の未来図を描くような議論の場を創出する。

#### 【委員】

小中学校それぞれの年代で実施されている取り組みは非常に素晴らしく、評価しています。今後は学校の統廃合や、高校進学に伴う路線バス利用者の増加なども想定されるため、それらの状況を踏まえつつ、本事業が継続されるよう配慮を求めたいです。

### ⑪ 自動運転の検討について(事務局から説明)

#### 【会長】

「⑪ 自動運転の検討について」何か質問、意見等ございますか。

#### 【委員】

自動運転には技術段階に応じたレベル設定がありますが、本協議会としてはどのレベルの運行を目指す予定ですか。地域の公共交通としての位置づけや、将来的な展望を含めた現時点での目標設定について伺いたいです。

#### 【事務局】

狙いとしては、将来の人材不足等に対応していくかです。現段階では基礎研究であると考えています。即実装といったレベルまでいくことはできませんが、研究を進めていきたいと考えています。

三田市さんが実証実験等を実施されていた大型バスでの自動運転といったものは想定しておらず、8人乗り程度のものや、グリーンスローモビリティサイズで考えております。

まずは、レベル2を実施し、基礎的な知識や運行に必要な技術等を身につけていくために、現在は研究を進めてまいります。

#### 【委員】

国土交通省の自動運転に関する補助事業について、昨年度は県内の三田市（新三田駅前）や養父市（八鹿駅～市役所間）においてレベル2相当での実施事例がありました。全国的には、大阪・関西万博会場の一部区間や福井県永平寺町などでレベル4の運行・実証が行われていますが、事故等の課題も散見されます。

今年度も県内数箇所で公募への申請があると聞き及んでおり、こうした実証実験に取り組む自治体の事例を注視し、研究を進めていくべきです。

(他 質問・意見等なし)

## ⑫ 公共交通の福祉施策について(事務局(福祉)から説明)

### 【会長】

「⑫ 公共交通の福祉施策について」何か質問、意見等ございますか。

### 【委員】

2点確認したい事項があります。

1点目 「お出かけサポート事業」の利用登録の基準に関してです。

従来より、真に必要な方へ必要な分を届けるという福祉の原則を共有してきましたが、現状は手帳の等級や要介護度などの表層的な区分で判断されていないでしょうか。

身体機能の有無（動くか否か）だけでなく、実際の生活動作（できるか否か）や移動の困難さに着目した、実効性のある棲み分けを検討すべきではないでしょうか。

2点目 通院用車いす利用の実績値についてである。令和5年度の2,261人から令和6年度の957人へと、1,304人も大幅な減少が示されています。これら全てが透析患者の入院等によるものと説明するには乖離が大きいと感じますが、実態はどうなっているのでしょうか。

### 【事務局(福祉)】

1点目 手帳要件の方針について「お出かけサポート」は、移動手段の確保が困難な重度障害者の外出支援を目的としています。現時点で要件見直しの予定はないですが、今後もより重度な方がしっかりと移動できる体制を目指していくべきだと考えています。

2点目 透析患者に対しては、必要通院回数（週3回程度）に応じて年間最大220枚程度の助成券を交付しています。そのため、年度途中の入院や施設入所により利用が停止した場合、全体の利用件数に与えるインパクトが大きいです。今回の利用件数減少についても、車いす利用者6名が入院等の理由で利用回数が大幅に減少したことが主因です。

### 【委員】

福祉的視点からの見直しが必要であるとの提言を受け、今後の事務局の取り組みに期待を寄せます。ぜひ前向きに検討を進めていただきたいです。

(他 質問・意見等なし)

## ⑬ その他 (事務局から説明)

### 次回開催日について

#### 【事務局】

・次回開催日について・・・令和7年10月頃目途開催

## 4) 閉 会

### 【副会長】

本日の慎重な議論、ならびに熱心な協議に感謝申し上げます。丹波市内旧6町それぞれの交通事情や地域の状況が異なるため、課題の難しさを改めて実感しました。本会議での議論を通じ、市内の交通事情が少しでも改善されることを期待します。